

下野谷小学校マニフェスト

計画期間 平成21年4月～平成23年3月

学校教育目標 「自分が好き 友達が好き このまちが好き」
～みんなで育てる下野谷小学校～

学校経営方針

- 子ども一人ひとりが生き生きとして、自分自身に自信をもてるように育てていきます。
- 一人ひとりが大切にされ、個に応じた取組や支援が行われる学校づくりを推進します。
- 専門職としての創意を大切にしながら、全職員が誇りをもって教育にあたり、充実感の味わえる学校づくりを推進します。
- 人権尊重の精神を基盤とする教育(人権教育)・国際理解教育の充実に努めます。
- 保護者および地域との連携を強め、学校・家庭・地域の共通理解のもとに、児童の健全育成を図ります。

指導の重点

- 学力の基礎基本の定着を図り、自分の思いや考えを表現できる学習過程や学習の場を工夫します。(知)
- 基本的な生活習慣の確立を図り、ルールを守りながら生き生きと活動できる場を充実します。(徳)
- 人との豊かなかかわりを構築するために、コミュニケーション能力を育みます。
- 人権尊重の精神を基盤として、すべての教育活動を推進します。
- 自他の生命や体を尊び、自らの健やかな体をつくります。(体)
- 自分の住む「まち」や横浜を愛し、積極的に「まち」や社会にかかわり、貢献しようとする学習や体験の場を充実します。(公)
- 地域の文化や伝統を大切に、社会の発展に貢献しようとする気持ちを育てます。(開)

改善の視点

取組目標

1 学校生活により満足していけるような学級づくりをしていく必要があります。

☆基礎・基本の学力を定着させる必要があります。

- ◎ 学級生活満足度調査(Y-Pアセスメントシート)を年2回実施することで、児童の自分作り・仲間作りについての思いや課題を把握し、一人ひとりに合った指導に取り組みます。
- 課題解決学習の推進や読書へのアニメーション・ブッククラブなど、教員の授業力向上のための研修を積極的に行います。
- 児童指導委員会を中心に特別支援態勢をとり、学級や個の問題・課題を担任一人が対応するのではなく、組織として取り組みます。

- ◎ 生きる力を付けていくために、昨年まで研究してきたPISA型読解力をさらに伸ばすと同時に、基礎・基本の学力も定着させていきます。
- 中学校との連携を考え、「漢字検定」を取り入れるなど、さらに協働した学習支援を進めます。
- 毎週月曜日を朝の読書タイムとして多読に取り組み、現在実施している保護者の読み聞かせも合わせて国語指導との関連を図り、読解力・思考力・語彙力などを育みます。

2 規範意識や公共心・言葉づかいの乱れなどが問題になっているため、豊かな心を育む取組を進める必要があります。

- ◎ コミュニケーション能力を生かした、人との豊かな関わりの中で、規範意識の大切さについて指導していきます。全ての教科や行事の場面でソーシャルスキルやコミュニケーションスキルを育む取組を広げ、様々なコミュニケーションを行うことができるようにします。
- 全職員で児童指導の共通理解を図り(下野谷スタンダード)、指導の内容や意図を統一して正しい言動や規範意識について指導していきます。

3 体力・運動能力の低下や基本的な生活習慣の改善を家庭と連携しながら行っていく必要があります。

- ◎ 休み時間には、外遊びの奨励や集会活動の充実に取り組みます。さらには、体育朝会、特設クラブ、夏季水泳指導、マラソン大会など、子どもたちが自ら進んで体力向上に取り組むことができるようにします。
- 「朝食をとらない」「好き嫌いが多し」などの食習慣が不規則な児童が多いため、学校での食育の取組を進め、家庭への啓蒙活動を行いながら、食の大切さを実感できるようにします。

4 まちの人々とかかわる学習や体験の場を充実していく必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 生活科や横浜の時間(総合)の学習などの場面で、まちに出るの体験や交流活動を通してまちのよさに気づくことができるよう取り組みます。 ○ 地域の方を教育ボランティアとして迎えたり、地域を学習の場として学びの機会を増やします。
5 地域の伝統や文化を尊重しながら、社会の発展に貢献しようとする気持ちを育む必要があります。	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 地域の伝統行事を学びに取り入れ、地域への愛着と鶴見を愛する心を育みます。 ○ Y150(横浜開港150周年)の活動を生かして、横浜の歴史や特徴について理解を深め、横浜を愛する気持ちを育みます。
6 安全・安心な学校づくりが必要です。	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 登下校および授業中の児童の安全を学援隊及び保護者の皆様に見守っていただきます。 ○ 区役所の活動に合わせて「子ども安全・安心の日」を毎月設定し、保護者とともに通学路や鶴見川、近隣の公園などのパトロールに取り組みます。

人材育成の考え方	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 校長・副校長が先頭に立って、全職員の人材育成に取り組みます。 ○ 全職員の資質と指導力を向上を図るため、数々のスキル等の研修を行いながら、研鑽していきます。 ○ 経験年数の浅い職員層の活力を学校全体の活力とするために、校内の重要ポストにも配置し、進んで学校運営に携わるようにしていきます。 ○ 学年や校務分掌組織のチームで連携しながら、児童指導や行事の推進などに取り組むことで全体をコーディネートできる人材の計画的な育成を進めます。
平成21年度の重点取組項目	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 「子どもが大切にされる学校」一人ひとりに応じた教育により、その子のよさを伸ばして参ります。 ◎ 全職員がチームとなり、豊かな関わりの中で一人ひとりの子どもを育て参ります。保護者や地域の皆様との協力を深め、児童を大きな力で支えて参ります。 ◎ 「基礎・基本の学力の定着」読書の機会を増やし、漢字検定に取り組み、コミュニケーション能力を育みながら、学習の基礎となる読解力、語彙力、思考力、発進力を高めます。 ◎ これまで以上に外部評価を学校運営に取り入れていくため、重点研究の授業研究会や学校行事に地域の方や保護者に参観していただき、学校評議会やまちとともに歩む懇話会、学校評価アンケートなどの意見も前向きに取り入れれます。
これまでの取組結果	<ul style="list-style-type: none"> ○ コミュニケーション能力を育む研究では、様々なスキルを身につけることができた。 ○ 全校群読では、6年生を中心として全校が一つにまとまるような発表ができた。 ○ 学校教育全般に関する保護者アンケートにより、児童の規範意識に対する学校教育への期待が大きかったことが分かった。また、学校からの情報発信について更なる要望があることが分かった。 ○ 学校評議会・まちとともに歩む懇話会により、地域の思いや願いを取り入れた学校運営の方向性を定めることができた。挨拶の指導については、更に継続してほしいことが分かった。
教育懇話会の意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域の祭礼に全校の児童が積極的に参加するようになり、教職員も参加し応援してくれることが自然体になってきた。これからも多くの児童が参加し、学校と一体となった取組になることを望んでいる。 ○ 家庭教育の一環として、躰(しつけ)はまず家庭で行うという考えが広がってほしいと望んでいる。 ○ ふれあい給食が地域の方との良い交流の場面となっているが、地域のお年寄りの受け入れを増やしてほしいことと、お年寄りだけではなく、昔の卒業生などにも広がりを持たせてほしいと望んでいる。 ○ 挨拶は、よくできるようになってきたと感じている。 ○ 下野谷まつりについて、地域も協力体制を整えて是非協力していきたいと考えている。また、この活動を90周年記念の活動につなげていきたい。

※1 この計画は、横浜市教育委員会の定める「学校版マニフェスト(中期学校運営計画)」として策定したものです。 ※2 ◎は重点項目